

令和3年度 事業所別事業計画

事業所 【 法人本部 】

I 現状と取り巻く状況

令和3年度は第五期3カ年計画の取り組みが新たにスタートする。計画と方針を共有し、「ゴール」に向け取り組む事が必要となります。また、介護報酬改定の年でもあり、新たに科学的に効果が裏づけられた質の高いサービスの提供が求められると共に、介護保険事業所には国へ介護関係データ提出とフィードバックの活用によるPDCAサイクルの推進と、ケアの質の向上が推し進められていくことになる。「人事・企画教育課」としては、すでに入職している職員の育成や新しい人材の確保、育成及び新たな利用者の獲得も図っていく必要がある。昨年度は、新型コロナウイルス感染症により、各事業とも経営に苦慮した1年となった。令和3年度も引き続き保育・老人福祉事業は新しい生活様式、感染予防に取り組みながら事業継続していける体制作りを行う必要がある。そして経営面においては、「ヒト」、担い手の確保や育成、「モノ」、老朽化設備の改善や新しい生活様式の整備、「カネ」、積極的な加算の取得や補助金の活用をしながら、事業活動による収支差額「プラス回復」を目指します。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 第五期3カ年計画の推進	・3カ年計画（第五期）の策定と理解及び実践を行う（役職員周知と各種目標の設定）
	② コンプライアンス（法令遵守）の強化	・法令及び諸規定を遵守する（過去の法人指導監査指摘事項の拾い出しと点検） ・虐待及びハラスメントを防止する（相談窓口の周知） ・交通事故・車内事故を防止する（予防と講習）
	③ 非常時における安全確保・対策	・各種訓練を実施し、改善を図る（非常災害・施設内感染（クラスター）等） ・避難計画の見直しを行う（実効性のある計画策定：土砂災害・水害） ・非常時に有効な設備の導入検討を行う（ライフライン寸断時の対応）
	④ 苦情の解決・リスクの管理（マネジメント：管理・分析・改善・成果を引き出す）	・苦情への早期対応を行う（苦情解決委員会の開催、研修会への参加） ・積極的に、リスク管理を行う（危機管理） （新型コロナウイルス感染症、労働者不足（人材確保と定着）、事業経営等）
能力開発	① 職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	・計画的な施設内研修（新人研修を含む）の実施と見直しを行う ・外部研修参加の推進や職員評価の見直しを行う ・キャリアパス概要図に基づいた人材育成を行う（資格取得の推進と情報提供）
	② 給与・働き方に関する規程の見直し（同一労働同一賃金への対処）	・「働き方改革（賃金・待遇等）」を踏まえた各種規定の見直しを行う ・年次有給休暇の確実な取得を進める（年5日以上取得）
	③ 業務の見直しと効率化（ICT活用／業務手順の見直しと統一）	・業務内容の現状把握と効果の検証及び見直しを行う ・記録等のシステム導入による業務改善、効率の向上を図る（保育・老人福祉） ・ICT、IOT導入に向けた各種整備の推進を行う
地域	① ヒト：職員の派遣（研修講師・介護教室など）／ボランティアの活用・見直し	・教室等の開催や専門職の講師派遣を行う（保育：オープンデー／老人福祉：介護教室） ・小中高校・専門学校・大学等の先生や学生、ボランティアとの交流の促進を図る ・医療機関や居宅介護支援事業所等との連携を強化し、利用者増加に繋げる
	② モノ：非常時における避難（スペース有効利用）／情報開示・発信（HP・広報誌）	・ホームページの充実と活用を行う（就職情報の充実） ・機関紙「太陽」の発行を行う（年4回） ・避難スペースの確認を行う（車椅子及びベッドでの避難スペース） ・財務諸表等の情報を公開する（事業の透明性）
	③ カネ：社会福祉充実残額の算定と計画	・社会福祉充実残額における新たな事業展開の検討を行う ・「地域における公益的な取組」の推進を図る（第10回論語三代、福生会祭りの開催等）
業務	① 支出管理の強化	・収支状況等の情報提供を行う（状況把握・調査・提案） ・事業活動による収支差額「プラス回復」を目指す（プラス：黒字決算）
	② 設備投資と計画（エコ・大型機器の入れ替え・計画）	・要入替、要修繕の物品等の拾い出しと購入計画を作成する（予算計画／補助申請） ・建物定期検査指摘事項の改善を計画する（建物定期検査：建築基準法における検査）
	③ 法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	・事務処理、手続の適正化を行う（法人指導監査適用） ・法人本部の機能強化を図る（内部監査の実施）

注1 ICT=information and communication technology 情報処理・情報通信分野の関連技術の総称

注2 IOT=Internet of Things 家電、医療機器等、多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること



令和3年度 事業所別事業計画

事業所 【 介護老人福祉施設 】

I 現状と取り巻く状況

国は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止の取り組みの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを打ち出している。

令和2年より新型コロナウイルス感染症予防のため、家族等と利用者の面会が制限され、両者のストレスとなっている。感染予防を続けながら面会のシステムを充実させていくことが必要である。

利用者の平均介護度は4.0、平均年齢は89歳となっている。利用者の重度化、高齢化に伴いより一層、ご本人の身体状況や思いをくみとる力を養っていくことが求められている。

多職種協働により専門的な介護サービスや安心、安全な生活の提供、利用者及び家族の満足の追求、自立支援の充実をはかっていく。また、介護報酬改定により、基本報酬や食費が引き上げられ、新たな加算も創設される。加算要件を把握し、取得に向けて体制を整えサービスの向上につなげていく。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 専門的な介護サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケア会議を中心とした介護の充実を図る</li> <li>・認知症ケア会議を開催する（月1回）</li> <li>・学習療法を継続（週3回）実施する</li> <li>・看取り期への見極めと看取り介護の充実を図る</li> <li>・口腔ケアの充実を図る</li> <li>・口腔ケアマネジメントに関わる計画書に基づいた口腔ケアの実施を行う</li> <li>・歯科医師による技術的助言及び指導を受ける（月1回以上）</li> </ul>
	② 自立支援の介護の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄ケア向上委員会を中心とした排せつ支援加算取得への取り組みを行う（排せつ介助の見直し）</li> <li>・嚥下能力を維持する支援を行う</li> <li>・経口維持加算の取り組みと嚥下体操を行う</li> <li>・ADL維持加算取得への取り組みを行う</li> </ul>
	③ 楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や行事に合わせた食事の提供を行う（月1回）</li> <li>・レクリエーションの充実（DVDの活用）を図る</li> <li>・虐待の芽チェックリストの活用による虐待防止に取り組む</li> <li>・接遇力の向上（接遇チェックリストの実施）を図る</li> <li>・表皮剥離や褥瘡をなくし、褥瘡発生率0を目指す</li> <li>・施設設備（洗面、トイレ等）の改修を行う</li> </ul>
	④ 病院との連携をはかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院時の情報共有を行う（医療機関・ケアマネジャー）</li> <li>・谷口病院との意見交換会を開催する（適宜）</li> </ul>
能力開発	① 特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場職員による研修会を開催する</li> <li>・リスクマネジメント、感染症予防、身体拘束、排泄ケア、口腔ケア、看取り介護、認知症介護の研修を実施する</li> <li>・各ユニットの実情に合わせたミニ研修を実施する</li> </ul>
	② 対人援助技術を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション研修へ参加する（全体会）</li> </ul>
地域	① 面会システムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン面会を必要に応じて行う</li> <li>・面会室の確保を図る</li> </ul>
	② 地域の保育園・小中学校・ボランティアさんとの交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防に努めながら適宜交流の場を設ける</li> <li>・クラブ活動の充実を図る</li> </ul>
	③ 福生会ニュースを掲載する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福生会ニュースを掲載し、家族や地域住民へ情報発信する（月2回以上）</li> </ul>
業務	① 職員の健康維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腰に負担のかからない介助法の指導、実践を行う</li> <li>・福祉用具の活用を図る</li> <li>・リフレッシュ休暇の取得（年5日間）</li> </ul>
	② 安定的経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率の向上を図る</li> <li>・入院者数：1日平均4人以内におさえる</li> </ul>

令和3年度 事業所別事業計画  
事業所 【 短期入所生活介護事業所 】

I 現状と取り巻く状況

国は、新型コロナ感染や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて「地域包括システムケアの推進」「自立支援・重度化防止の取り組みの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを打ち出している。

ショートステイの利用者は、要支援から医療的対応が必要な重度者まで幅が広く、在宅生活の継続の視点から特養利用者よりもきめ細かいサービス提供が必要である。またサービス利用を調整する居宅のケアマネジャーとの連携が重要となる。また、介護報酬改定により、基本報酬や食費が引き上げられ、新たな加算も創設される。加算要件を把握し、取得に向けて体制を整えサービスの向上につなげていく。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 機能訓練の計画作成、他医療機関等の連携とアセスメント等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別機能訓練計画の作成及び利用者の居宅を訪問し、説明と評価を実施する（3ヶ月に1回）</li> <li>医療機関、他事業所等と連携、評価の充実を図り、利用者支援に活かす</li> </ul>
	② 認知症利用者への適切なサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症日常生活自立度Ⅲ以上の受入れ（50%以上）の確認と実施・対応を行う</li> <li>留意事項の伝達又は技術的指導に関する会議を定期開催する（毎月）</li> <li>学習療法実施する（週3回）</li> </ul>
	③ 利用者のニーズに合った細かい対応と業務の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助内容確認書を活用、利用者の最新の状況を職員間で統一して把握する</li> <li>定期的に苑での利用者状況の意見交換を行う（リーダー会などを活用）</li> <li>トラブル対応委員会での内容をふまえ業務の検証と見直しを実施する（必要時）</li> </ul>
能力開発	① 認知症利用者への対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護、看護職員ごとの認知症研修を計画作成し実施する (特養と同じ実施内容)</li> </ul>
地域	① 居宅ケアマネジャーとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス担当者会議へ出席する（ケアマネジャーからの依頼時は原則として出席）情報交換を行い、利用者支援に活かす</li> </ul>
業務	① 利用者確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッドの効率的な活用をする（空きベッドを有効活用して平均16床/日以上の利用を目指す）</li> <li>利用者の獲得と定着を図る</li> </ul>
	② 夜勤職員配置加算の算定要件確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定特定行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）の夜勤者配置を行う（毎日1名）</li> </ul>

令和3年度 事業所別事業計画

事業所 【 通所介護事業所 】

I 現状と取り巻く状況

介護保険利用実績は予定数より1日あたり4.2人のキャンセルが発生している状況にある(利用実績30.5人/日 利用予定数34.7人/日 キャンセル率12%)。今後も体調不良や施設入所、ショートステイの利用による利用者数の減少に限らず、積雪や新型コロナウイルス感染症等の影響を受けたキャンセルも一定数発生してくると想定される。利用減少に繋がる様々な要因に適切に対応していくことが、安定した事業所運営を行う上で必要となっている。

今回の大きな介護報酬改定に見られるように、今後は「科学的介護」の取り組みが、これまで以上に重要視され、利用者の状態を客観的なデータに基づき分析し、計画書の改善等を行うPDCAサイクルを確立することで、ケアの質を向上させていくことが求められている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響は、しばらくはこの状態が続くと考えられ、感染症対策の継続も進めていく必要がある。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 利用者に応じた機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能実施者の介護度維持・向上の評価基準値70%以上を目指す</li> <li>機能訓練計画書に添った訓練の実施、評価、見直しを行う</li> <li>自宅で出来る運動の提案と指導の継続を行う</li> <li>体力測定を実施する(年2回)</li> </ul>
	② 能力や好みに応じた活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な活動メニューの提供を行う</li> <li>集団レクリエーション、行事の充実を図る</li> <li>専門職員による集団体操を実施する(月2回)</li> <li>学習療法の継続、評価を行う</li> </ul>
	③ 家族・各事業所との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介事業所訪問(月1回)、迅速な報告、連絡、相談に繋げる</li> <li>サービス担当者会議に100%参加する</li> <li>確実な実績報告とモニタリング(毎月)を行う</li> <li>家族懇談会、事業所評価アンケートを実施する(年1回)</li> </ul>
能力開発	① スキルアップと人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>通所事業勉強会を実施する(年5回ミーティング時)</li> <li>レクリエーション研修(年8回)へ参加し、事業運営に活かす</li> <li>施設内研修、事例検討会に参加する(1人1回参加)</li> <li>接遇チェックリストの継続、評価を行う(毎月)</li> <li>施設外研修へ参加し、伝達講習を行う</li> <li>認知症実践者(1名)等資格取得に努める</li> </ul>
	② 感染症対策の正しい知識と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防対策の徹底と継続を行う</li> <li>コロナウイルス発症時の対応訓練を実施する</li> </ul>
地域	① 地域貢献と地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前レク、専門職による介護教室を実施する</li> <li>福生会ニュースへ情報発信する(毎月)</li> <li>三朝をなんとかしよう会へ参加する(1人以上)</li> <li>地域行事へ参加する</li> </ul>
業務	① 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率75%以上を維持し、新たな加算取得に取り組む</li> <li>要介護者実績25名/日以上を目指す</li> <li>各事業所へのアピール活動を行う(デイ通信年3回発行)</li> </ul>
	② 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録システムを活用し、効率化を図る</li> <li>事業計画遂行状況の確認、改善を行う</li> <li>業務内容の検討、マニュアル見直しを行う</li> </ul>
	③ 職員の健康維持及び福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝ミーティング時にストレッチ体操を実施する</li> <li>交通事故及び労働災害防止に努める</li> <li>年次有給休暇を取得する(年5日以上)</li> </ul>

|

令和3年度 事業所別事業計画  
事業所 【 ケアハウス 】

I 現状と取り巻く状況

利用者15名のうち、何らかの介護保険サービスを利用されている方が13名である。入居前から介護保険サービスを受けておられる場合も多く、日中の職員の見守りや声かけが必要となっている。平均年齢も87歳であり、生活面や医療面の個別のケア、緊急時の対応の整備が重要となっている。

利用者の今後の生活への希望や思いを共有し安心、安全な生活を送っていただけるように職員一人ひとりの能力向上が必要になっている。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① サービスの質の向上（全体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防レクリエーションを継続実施する（週6回）</li> <li>・ミニ講座の開催（年5回）</li> <li>・緊急時の対応整備に加え、訓練を実施する</li> </ul>
	② サービスの質の向上（個人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別レクリエーションを提供する</li> <li>・個別外出の支援を実施する（年間1人1回以上）</li> <li>・家族との連携強化を図る（来苑時及び月1回近況報告）</li> </ul>
能力開発	① 人材育成と資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する学習を実施する（2ヶ月に1回）</li> <li>・レクリエーション研修に参加する（年3回）</li> <li>・施設内研修に参加する（実施月必ず1人参加）</li> </ul>
	② 接遇力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇評価を継続実施し、向上に努める（毎月）</li> <li>・利用者・家族へのアンケートを実施し、改善を図る</li> </ul>
地域	① 地域・保・小・中との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の保育園・小・中学校と交流を図る</li> <li>・地域行事への参加を支援し、地域の方と交流を図る</li> </ul>
	② 地域貢献の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動を継続実施する</li> </ul>
業務	① 安定的経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満床を維持するとともに待機者の確保に努める</li> <li>・関係機関との連携強化を図る（月1回の情報提供）</li> </ul>
	② ホームページの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福生会ニュースを掲載し、家族との連携を深める（月2回以上）</li> </ul>
	③ 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容の検討とマニュアルの見直しを行なう</li> <li>・担当業務の遂行状況を確認する</li> </ul>





令和3年度 事業所別事業計画  
事業所 【 グループホーム 仁の里 】

I 現状と取り巻く状況

急速な少子高齢化・独居高齢者などの1人暮らし世帯が増加し、誰もが安心・安全に暮らし続けられる地域を実現する為、地域支援の担い手としての役割もグループホームとして重要である。グループホーム入居者もご高齢になられるにつれ、認知症状のみならず医療への対応も必要になってきている。その人らしい一人ひとりに合ったケアを提供出来るよう、職員の介護に対する意識・資質・能力の向上が必要である。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を活かした役割づくり（1人1日1回以上）（洗濯干し・手芸・野菜作り・調理活動等を実施する）</li> <li>・季節に応じた外出や外食を実施する（月1回以上）</li> </ul>
	② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団及び個別リハビリ・脳トレを実施する（毎日）</li> <li>・嗜好を取り入れた食事の提供及び行事食を実施する</li> <li>・口腔ケア・体調管理をし健康の維持に努める（毎日）</li> </ul>
	③ 認知症状に対する適切な対応・安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に認知症状の確認を行いケア会議を実施する</li> <li>・同じ事故を起こさない為、安全性の確認と情報共有を図る</li> </ul>
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎介護知識・認知症ケアの能力向上を図る</li> <li>・記録の確認・周辺症状に伴った統一した介助の提供を行う</li> <li>・外部研修1人1研修以上の参加を実施する</li> </ul>
	② 認知症に関わる資格取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外での認知症研修に参加する（1研修以上）</li> <li>・ビデオ等を活用した伝達研修を行う</li> </ul>
地域	① 運営推進会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議（2ヵ月に1回）での意見・アドバイスの反映</li> </ul>
	② 防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区消防団や近隣を交えた防災訓練を実施する（火事・災害・地震等の訓練年1回ずつ）</li> </ul>
	③ 地域に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流会を実施する（年4回）</li> <li>・認知症カフェを実施する（月1回以上）</li> </ul>
	④ 地域を理解し信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流や情報交換を行い家族との連携を図る（総会・どんどさん・奉仕作業・運動会等）</li> </ul>
業務	① 働きがいのある環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有給休暇（年5日以上）と連休の取得を目指す</li> <li>・残業を減らす（日30分以内とする）</li> </ul>
	② 安定的な経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理を行い入院者ゼロを目指す</li> <li>・各種加算（リハビリ）取得に努める</li> </ul>
	③ 接遇力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇研修へ参加し、自己評価を行う（個人評価表を作成し月1回評価）</li> </ul>

令和3年度 事業所別事業計画  
事業所 【 認知症対応型通所介護事業所 】

I 現状と取り巻く状況

少子高齢化に伴い、認知症の方の介護を在宅で継続していく事が段々に難しくなっている。誰もが安心安全に家庭での生活が続けられるよう、本人が持つ力や意欲を引き出し様々なニーズに対応できる職員の資質向上と能力も必要となっている。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の経験を活かしたケアに努める（手芸・調理活動等）</li> <li>季節感のある外出行事を増やす（週1回以上）</li> </ul>
	② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体状態の変化や異常の早期発見・対応に努める</li> <li>生活の中にリハビリを取り入れる</li> <li>健康増進に取り組めるケアを実施する（散歩・体操脳トレ）</li> </ul>
	③ 各事業所・ご家族との信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や他サービス事業所との連携を図る</li> <li>連絡ノートを活用 カンファレンスへ参加する</li> </ul>
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の確認・周辺症状に伴った統一した介助の提供を行う</li> <li>レクリエーションの充実を図る</li> </ul>
	② 認知症に関わる資格取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内外での認知症研修に参加する（1研修以上）</li> <li>ビデオ等を活用した伝達研修を実施する</li> </ul>
地域	① 地域とのつながりを大切にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流会へ参加する（年4回）</li> <li>認知症カフェへ参加する（月1回以上）</li> </ul>
	② 防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区消防団や近隣を交えた防災訓練を実施する</li> <li>防災訓練へ参加する</li> </ul>
	③ 地域を理解し信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事へ参加する（年4回以上）</li> <li>（老人クラブ運動会 小・保育園行事へ参加する）</li> </ul>
業務	① 働きがいのある環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>有給休暇の取得（年5日以上）</li> <li>腰痛予防・交通事故防止に努める</li> </ul>
	② 安定的な経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者の取得（ケアマネジャーとの情報交換）</li> <li>延べ人数月45人以上</li> </ul>
	③ 接遇力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>接遇研修へ参加し自己評価を実施する（個人評価表を作成し月1回評価）</li> </ul>



令和3年度 事業所別事業計画  
事業所 【 三喜苑西郷 】

I 現状と取り巻く状況

近年、家庭の事情等により重度の方は施設系サービスを利用される方が多く、通所介護を利用される対象者は要介護度の低い方が増えている。特に西郷デイはハード面において重度の方の受け入れが難しく、また対象地域が広く利用者の獲得が容易ではない。今後、要介護の利用者の獲得、及び稼働率アップを目指すために、各関係機関との更なる信頼関係の構築に努めていく。また現在の利用者に継続して利用していただくために、満足度を上げるサービスの提供、機能訓練による身体機能の維持、体調の把握と早期発見による健康管理による在宅生活の継続を支援していく。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 利用者に応じた機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に応じた機能訓練の計画、実施、評価を行う</li> <li>・集団体操、生活リハビリ体操の継続実施を行う</li> <li>・残存能力を活かした介助方法の統一を図る</li> </ul>
	② 能力や好みに応じた活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別活動の充実を図る（興味関心チェックリストの作成）</li> <li>・季節行事の充実を図る</li> </ul>
	③ 各事業所との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所への迅速な報告、担当者会議への出席を行う</li> <li>・確実な実績報告とモニタリング評価の提出を行う（毎月）</li> <li>・各事業所へアピールを行う（広報誌年4回以上発行）</li> </ul>
能力開発	① 資質向上と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な勉強会を開催する（毎月）</li> <li>・施設内外の研修に参加し能力向上に努める</li> <li>・個人面談による指導を行う（年2回）</li> </ul>
	② サービス向上、利用満足度を上げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族アンケートを実施し改善を行う（年1回）</li> <li>・接遇チェック表の継続と振り返りを行う（毎月）</li> <li>・事故防止と利用者の異常の早期発見、早期対応に努める</li> </ul>
地域	① 地域貢献と地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動へ参加する（春・秋の奉仕作業、サラバンダ）</li> <li>・福生会ニュースを発信する（毎月）</li> <li>・ボランティア、実習生の受け入れを行う</li> </ul>
業務	① 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率70%以上、要介護者実績10名/日以上</li> <li>・各加算の取得を検討する</li> </ul>
	② 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護記録システムの活用とデータ管理を行う</li> <li>・業務内容の検討、マニュアル作成を行う</li> <li>・担当業務の遂行と見直しを行う</li> </ul>
	③ 職員の健康維持及び福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的年次有給休暇取得（年5日以上）</li> <li>・時間外労働の上限規制（月30時間）を遵守する</li> <li>・交通事故及び労働災害防止に努める</li> </ul>

令和3年度 事業所別事業計画  
 事業所 【 居宅介護支援事業所 】  
 I 現状と取り巻く状況

先日、令和3年度介護報酬の改定が行われた。厚生労働省は、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、引き続き地域包括ケアシステムの推進を図ることに加え、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中、「感染症や災害への対応力強化」を方針のひとつとして追加した。新型コロナウイルス感染拡大状況や災害発生状況に合わせ、居宅介護支援事業所・介護支援専門員として、これまでとは違った状況下においても必要な介護サービスを継続的に提供できる対応力、調整力が求められている。また、これまでも介護支援専門員や、介護支援専門員が行うケアマネジメントの質が問われてきたが、自立支援、重度化防止という視点に加え、主治医や医療機関との更なる連携強化が求められており、健康状態を把握し、利用者のケアプランに位置付けることも重要視されている。また、厚生労働省は、地域共生社会の実現も推し進めており、引き続き利用者の住む地域に目を向け地域の力も活用する視点も持ち続けなければならない。

居宅介護支援事業所、介護支援専門員の業務は増えつつある。業務の整理や効率化を行い、働き方改革にも努めたい。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の生活状況の十分な把握と課題分析を行い、ケアプランを作成する（アセスメントシート活用）</li> <li>利用者に関わる支援と連携が円滑にできるよう、他部署との意見交換会を実施する</li> </ul>
	② 医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要時には診察に同席し、医師等に利用者の情報提供を行い、医師から情報提供を受けてケアプランに位置付ける</li> <li>退院時の状況確認（全入院者）と、プラン変更の必要な利用者はプランの見直し実施する</li> </ul>
能力開発	① 個々の希望や能力に合わせた目標を持ち、達成を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会を開催（基本的には居宅内のみ。新型コロナウイルス感染状況を見ながら、施設内や他法人との開催は検討する）</li> <li>介護支援専門員個々の目標を設定し、目標に合わせた学びの計画を立て実行する（居宅内、外部研修等組み合わせる）</li> </ul>
地域	① 利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりを作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を支援する地域のサービスを知り、利用者の支援として見守り体制の強化を図る （民生委員との関わり、愛の輪協力員・緊急キットの再確認等）</li> </ul>
業務	① 利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を96件/月、要支援・事業対象者を18件/月維持）※要支援・事業対象者は1件=0.5件で計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切なケアマネジメント実施のための管理・調整を行う（毎月請求時）</li> <li>法的根拠に基づいた仕事ができるよう法令の理解を深める</li> </ul>
	② 働きやすい職場環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時で退社できる取り組みを検討、実施する</li> </ul>



令和3年度 事業所別事業計画

事業所 【 賀茂保育園 】

I 現状と取り巻く状況

三朝町が令和2年度公募した「みささこども園の指定管理」は実施とならず、当分の間、賀茂保育園、みささこども園、竹田保育園の3園が存続することになった。三朝町の少子化の中、3園がその少ない子どもを分けて受け入れることになり、賀茂保育園も園児数の減少となることが予想される。適正な園児数を確保していくことが今後の重要な課題となるが、園児確保には、中部地区の広域から園児を募集することを考えなければならない。

園児確保に向けて、質の高い保育の提供はもとより、賀茂保育園としての特色を強く打ち出していく必要がある。論語の素読やお茶会・坐禅を通しての心の教育、発達年齢に応じた運動遊びを通しての体作り、自然の中での活動を通して生きる力を養う保育、さらには現代的課題となっている英語に力を入れ、保護者・地域のニーズに応える園経営をめざすことで、「賀茂に通わせたい」と保護者から選ばれる保育園としたい。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 質の高い保育の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の見取りと適切な保育に努める</li> <li>・年齢到達目標を見据えた保育の実践する</li> <li>・小学校に向けての接続カリキュラムの確実な実施を行う</li> </ul>
	② 経営方針の明確化と特色づくり	豊富な自然体験活動をベースとして (知) 英会話教室の充実を通して英語力とコミュニケーション能力の育成を図る (徳) 論語、座禅、お茶を通して豊かな心の育成を図る (体) 資格者による運動の指導を通して、運動能力の向上と健康な体作りを行う
	③ ネットの活用と積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だより、クラスだより、福生会ニュース、論語だより、食育だより、絵本通信等の積極的な発行を行う</li> <li>・ネットを活用しリアルタイムの情報発信を行う</li> </ul>
能力開発	① 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価に基づく課題の設定と改善を行う</li> <li>・研究テーマの設定とグループでの取り組みと実践を行う</li> <li>・他園との年齢別検討会の実施を行う</li> </ul>
	② 研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児運動指導検定の受講と資格取得に努める</li> <li>・キャリアアップ研修等の専門分野の受講による資質の向上を図る</li> <li>・ミドルリーダー研修受講による指導力向上を図る</li> </ul>
	③ 外部への公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教委、町教委、他園保育士による指導助言に基づき改善を行う</li> <li>・公開保育を年2回実施する</li> </ul>
地域	① 他園・小・中学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の園児との交流会（年長児、竹田保育園）年3回以上実施する</li> <li>・三朝小学校1年生、5年生との交流それぞれ年2回実施する</li> <li>・三朝中学校トライワーク、保育体験の受け入れを実施する</li> </ul>
	② 福祉施設・地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉施設訪問（三喜苑など）年5回実施する</li> <li>・老人会との交流を実施する</li> </ul>
	③ 地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小、中学校の夏休みボランティア活動の受け入れを行う</li> <li>・地域でのイベントへの園児の出演、作品展示などの協力を行う</li> <li>・年4回以上オープンドー（未就園児対象）を実施する</li> </ul>
業務	① 職員間の協力体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事等の協力体制の確立を図る</li> <li>・クラス、未満児、以上児担当など、小規模のミーティングを実施する</li> </ul>
	② 保護者との信頼関係作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時を利用した園児の保護者との情報共有を行う</li> <li>・保護者向け園行事、保育参観を実施する</li> <li>・クラス懇談会、個人懇談を実施する</li> <li>・気にかかる園児の積極的な保護者との懇談の実施</li> </ul>
	③ 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児確保に向けた努力を行う</li> <li>・消耗品、水光熱費等の削減の検討と効率化を行う</li> <li>・ネット配信活用によるペーパーレス化の推進を行う</li> </ul>